

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

新聞活用学習支援サイト



効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 南日本新聞社

【サービス名称】

すく〜る373る

【サービスの支援項目】

カテゴリー1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



1. サービスの概要、特徴

「すくーる373る」は、南日本新聞社が開発した小中学校向けのクラウド型学習支援サービスです。新聞という身近なメディアをデジタル教材として体系化し、記事を通して情報を読み解き、考え、表現する力を育てる学習基盤を提供しています。記事検索や授業共有機能など7つの機能を備え、児童・生徒が地域や社会の情報を主体的に探究し、意見交換や発信活動が活発化しています。事実に基づく情報選択や文章表現の学習は、メディアリテラシーや探究的な学びの深化につながり、県内小中学校での活用も広がっています。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

記者取材に基づく信頼性の高い新聞記事を基盤に、授業共有、検索、投稿、クイズなど学習活動を一体的に行える点が他教材との大きな違いです。日々更新される地域密着型の実素材に触れることで、児童生徒の読解力・思考力・情報活用力を育成、個別最適な学びを深め、働き方改革を同時に支援する点が導入メリットです。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- ・デジタルで記事のキーワード検索機能を備え、探究的な学習や総合的な学習などの資料として活用できます。
- ・多岐にわたる新聞記事を読むことで、学校での学習が実生活でどう関連付けられるか理解することができます。
- ・鹿児島県の児童・生徒に身近な地元の事例を使って学習を進めることで、学習への興味関心を引き出します。

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

(3) サービスの活用場面

- ・朝・終業時の活動・学級活動（朝刊を読む、記事検索、クイズ等）
- ・全教科での導入に旬のニュース記事紹介、ディベートに活用
- ・総合的な学習の時間に、地域の最新・正確な情報を検索して調査活動
- ・作文・創作指導で、朝刊への意見文やイラスト、詩を投稿

(4) 1サービスあたりの標準販売価

- ・児童・生徒1人当たり1年間定価900円（税抜き）です。教職員は無料
- ※料金に初期設定は含まれません。ユーザ側で設定が必要になります。
- ※ご利用料金に通信費は含まれません。

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

- ・初期設定・研修：各校ICT担当教員向けの操作研修を実施
- ・サポート体制：平日10:00～17:00、メール・電話での技術サポート
- ・セキュリティー：文科省ガイドラインに準拠、ID管理・通信暗号化対応済み
- ・出前授業：児童・生徒対象に、新聞記者が記事の読み方、作文、写真撮影指導する「よむのび教室」



導入先の学校では、地域資料の不足や情報の真偽判断の難しさ、新聞記事管理や探究学習指導の負担が課題でした。本実証で導入したサービスは、信頼性ある新聞記事を検索・共有でき、授業準備を効率化。地元事例を生かし、児童生徒の思考力・表現力・発信力の育成を支えました。

児童生徒・教職員が抱える課題

- ①地域の歴史や社会について学ぼうとするが地元について書かれた資料が少なく、関心が乏しい。玉石混交の情報が飛び交うインターネットの中で、児童・生徒が確かな情報を選び取ることが難しい。
- ②教職員が授業で使うため紙の新聞記事を切り抜いて保存するが、記事がほかの資料に紛れて紛失することがある。
- ③総合的な学習（探求的学習）の成果として、発表する資料のレイアウト方法、まとめ方がわからず、長文読解や作文指導等に苦勞している。
- ④総合的な学習や地域との交流活動などを通じ、子どもたちの発表の場として新聞投稿をしたいが、手間が煩雑。

サービスが果たす役割

- ①「調べる」「授業」機能で、先生方が記事を予め抽出し、クラスで共通テーマとして導入。地域情報満載の南日本新聞データから、児童生徒自らもキーワード検索して身近な地域への興味関心を高めることができる。
- ②1週間分の「新聞を読む」、データベース記事検索機能「調べる」により、生徒・児童らとデジタルで共有し、紛失なども防ぐ。
- ③出前授業などを行い、新聞の読み方や記事の書き方・写真撮影方法などを助言。5W1H（いつ・誰が・どこで・何を・なぜ・どのように）を意識して正確に書く記事を読み解くことで、文章や図解で考えをまとめる力、表現力・発信力を養う。
- ④「投稿」機能を使って、新聞社にボタン一つでデータ送信。気軽に取り組める。

サービスの活用風景・授業の流れ

授業の導入

(「調べる」「授業」機能)



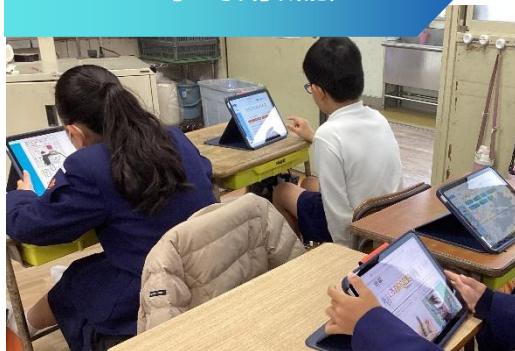
「授業」機能で、先生方が事前に記事を検索。過去5年分の記事から地域の話題、類似テーマをピックアップ、児童・生徒の関心を高める。



地域を知る

(「調べる」「新聞を読む」

「クイズ」「連載」機能)



1週間分の「新聞を読む」、1年分の記事検索機能「調べる」「クイズ」「連載」等により、鹿児島県の児童・生徒に身近な地元の事例を使って、学習への興味関心を引き出す。

学びを深める

(記者らの出前授業)

出前授業を行い、新聞の読み方・記事の書き方・写真撮影方法などを伝え、考えをまとめる力、表現力・発信力を養う。



「投稿」機能を使って、先生方が子どもたちの意見文やイラスト、詩を新聞社にボタン一つでデータ送信。



児童・生徒の掲載新聞記事を学校内に掲示

新聞投稿

(「投稿」機能)



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	2	学校等教育機関数	14 校
--------	---	----------	------

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	鹿児島市教育委員会	鹿児島市立山下小学校 他8校	鹿児島県	小学校	1~6年	国語、社会、算数、理科、生活、音楽、 図画工作、家庭、体育、外国語、 道徳、総合的な学習
2	鹿屋市教育委員会	鹿屋市立大始良小学校 他4校	鹿児島県	小学校 中学校	1~6年 1~3年	国語、社会、算数、数学理科、生活、 音楽、図画工作、家庭、技術・ 家庭、体育、保健体育、 外国語、道徳、総合的な学習

定量的効果検証①

指導者、生徒・児童対象インターネットアンケート (回答者数 先生32人、児童・生徒1032人、2025年12月8日～25日)

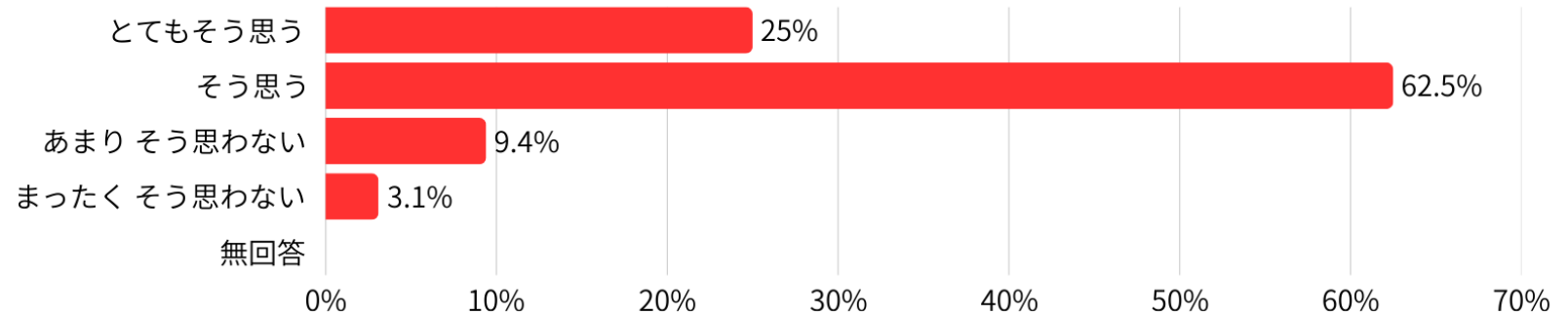
参加全14校から回答あり、「すくーる373る」の教育効果として、今年度導入後の学習態度の変化等を質問した。肯定的回答値が最も高かったのは、「地域への興味・関心」で87.5%。同様の質問で、児童・生徒からも63.4%から肯定的回答を得た。

<考察>

地域の歴史や社会について学ぼうとしても地元資料が少なく、また玉石混交のインターネット情報の中から確かな情報を選び取ることが難しいという課題があった。サービス導入の結果、「すくーる373る」を活用することで、児童生徒が地域や社会に関する学習に主体的に取り組むようになったかという質問に対して、多くの指導教諭が肯定的に回答した。このことから、「調べる」「授業」機能により、信頼性の高い記事を共通教材として提示しつつ、児童生徒自身がキーワード検索を行うことで、安心して情報に触れながら興味・関心を高め、探究的な学びを深める環境が整ったと言える。

<質問> 「すくーる373る」を使ってから、児童生徒が地域・社会の動きに目を向けるようになり、関心が利用前より高まった。(回答数: 32)

■指導者対象アンケート



【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証②

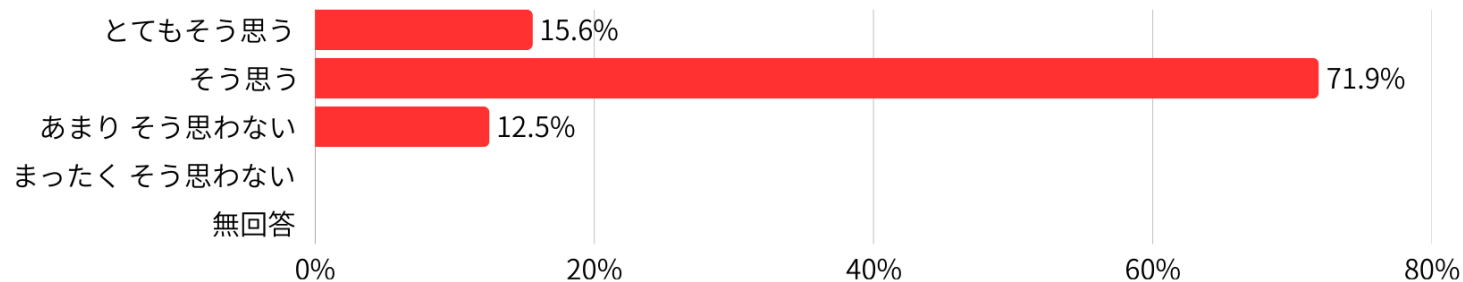
指導者、生徒・児童対象インターネットアンケート（回答者数 先生32人、児童・生徒1032人、2025年12月8日～25日）

参加全14校から回答あり、「すくーる373る」の教育効果として、今年度導入後の学習態度の変化等を質問した。肯定的回答の値が同じく高かったのは「文章力・表現力」で87.5%。同様の質問で、児童・生徒からも54.4%から肯定的回答を得た。

<考察>

総合的な学習（探究的学習）において、発表資料のレイアウトやまとめ方が分からず、文章読解や作文指導に苦勞しているという課題があった。サービス導入の結果、児童生徒が自分の考えをまとめて発言したり文章で表現したりする力が向上したかという質問に対して、指導教諭の87.5%が肯定的に回答し、児童生徒自身も半数が向上を実感しているという結果が得られた。記事を活用した学習や、出前授業等を通じて新聞の読み方や5W1Hを意識した記事構成に触れることで、文章や図解を用いて考えを整理し、表現・発信する力を育てる「すくーる373る」の教育効果が表れていると言える。※回答は「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階評価。

<質問>児童生徒が、自分の考えを整理し、発言したり文章で表現したりする力が、利用前より向上した。
(回答数: 32)



■指導者対象アンケート

定性的効果検証

参加校指導者にインタビュー①

■鹿屋市立上小原中学校(1~3年114人)2、3年生「国語」担当教諭

<国語・2分間スピーチ>

生徒が関心のあるテーマを「すくーる373る」の新聞記事から選び、感想をまとめて発表する2分間スピーチの活動を、今年度当初より実施している。当初は消極的な生徒も見られたが、現在では自ら発表を希望するなど、主体的に取り組む姿が増えている。最低賃金の記事では、鹿児島県の金額に着目し、将来の生活や職業選択と結び付けて考える生徒がいたほか、ノーベル賞受賞の記事を通して、「努力の積み重ね」を自身の部活動や希望する職業と関連付けて発表する生徒もいた。発表後の質問や意見交換も増えている。隣接する上小原小学校での中学3年生による読み聞かせ活動でも、今後は新聞記事の活用など、小中連携の交流につなげたい。

<考察>

本活動は、生徒が自らテーマを選び考えを発信する主体的な学びを促すとともに、発表後の意見交換を通して対話的な学びを生み出している。社会的な出来事を自分事として捉えることで理解が深まり、国語科における深い学びにつながる実践であると考えられる。



【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

参加校指導者にインタビュー②

■鹿児島市立広木小学校(1~6年728人)2年生担任教諭

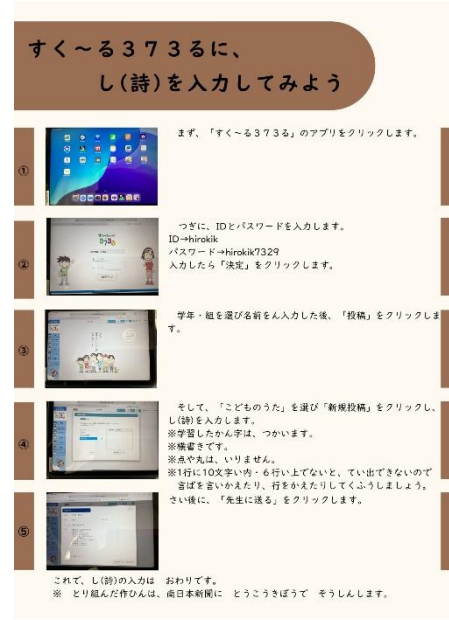
<低学年児童への働きかけと「投稿」活動>

デジタル教材として「すくーる373る」は、低学年児童にも視覚的効果が高い。漢字の習得が十分でない児童でも、写真やグラフを手がかりに内容を理解し、記事を「見る」ことができている。季節外れに校内で桜が咲いたことをきっかけに、記事を調べようとする姿も見られ、身近な出来事から探究的な学習へとつながった。

「子どものうた」などの投稿欄を活用することで、表現・発信の機会が広がった。冬休みの詩の創作課題では多くの児童が作品を提出し、連載企画(動物図鑑等)も身近な生き物への関心を高める教材として有効であった。

<考察>

本事例から、低学年児童に対しても情報を読み解く力を養うのに有効な教材であることが示唆される。視覚的要素から興味・関心を喚起し、身近な出来事を学習へと結び付けている。投稿活動を通して表現・発信の経験を積むことは学習意欲の向上につながり、作文や新聞投稿など発展的な学習への基盤形成に寄与すると考えられる。



■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

参加校指導者にインタビュー③

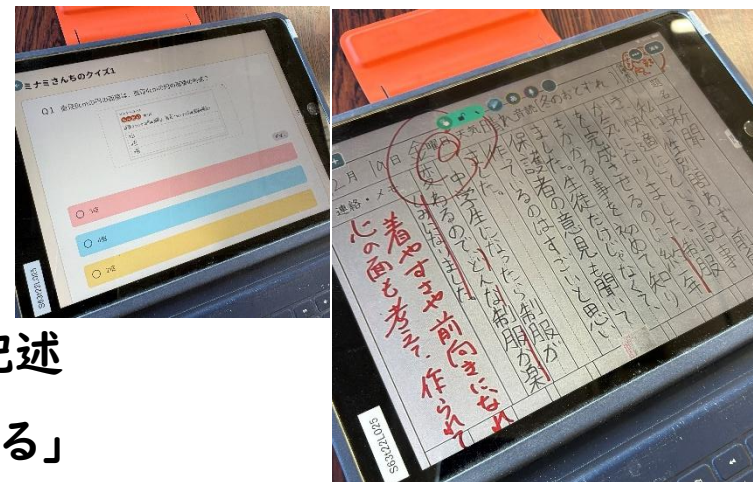
■鹿児島市立福平小学校（6年198人）6年生担任教諭

＜記事を「自分ごと」にするワークシート、学級活動やプレゼンに活用＞

「今週のニュース」と題したワークシートを用い、6年生が新聞記事の感想を自由に記述する活動を継続している。従来は教員が選んだ記事を配布していたが、「すくーる373る」の活用により話題が多様化した。制服にまつわる記事から、多様性や自分たちの生活との関わりについて考える児童も見られ、視野の広がりが感じられた。最新で正確な情報に触れる機会が増え、メディアリテラシー育成の面でも意義がある。朝や帰りの会にも活用し、学級活動では「ミナミさんちのクイズ」から、鹿児島に関する問題を選んでレクリエーションに応用するなど、学習と日常を結び付けた活用が行われた。

＜考察＞

本実践は、児童が記事検索機能を活用し、自ら関心のある記事を選ぶことで主体的な学びを促している。記事内容を共有したり活動に応用したりする過程で対話的な学びも生まれている。社会や地域に関わる情報を手がかりに考えを深めることで、探究的に学ぶ姿勢が育まれ、深い理解へとつながっていると考えられる。



■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

- ・すくーる373るが使えるようになってから、調べ学習や気になる記事を読んで世の中のことについてすごく興味を持つようになった。(小5)
- ・クイズを解いて初めて知ることができたものもあったので、学習になった。(小5)
- ・新聞を読む機会が少なくて、テレビとかネットの一部の情報しか知ることがなかったのですが、こうやって新聞も読むことができ、同じ出来事でも多方面から見る力が少しだけ育ったように感じます。こんなことがあったんだな、と驚くこともおこったですし、使えて良かったと思います。(小6)
- ・記事だけでなく、「クイズ」や「投稿」など新聞ではないコンテンツもあり、新聞により親しみやすくなった。(小6)
- ・子どもたちが、新聞に興味をもって積極的に読もうとする様子が見られるようになりました。また、文章を書くことに興味をもち、進んで表現しようと強く意識するようになりました。(小学校教諭)
- ・書籍に比べて情報が最新であること、インターネットでのたくさんの情報からの取捨選択や信憑性の有無の判断が難しい子どもたちにとって、新聞記事はすごく役立った。カラーで見られることも良かった。新聞を購読する家庭が少なくなっている今、新聞に触れる機会をどの子どもたちも平等に持てたこともとても良かった。(中学校教諭)
- ・授業準備の時間が短縮できたので、働き方が変わりました。また、学級全員で同じ記事を共有できるので、指導改善にも役立ちました。(中学校教諭)

初導入校では記事検索やクイズは活用されたが、授業機能の利用は限定的で、編集機能不足や認証面の課題も顕在化した。教員向けマニュアルの実装や研修の実施、外部編集ソフトとの連携、ID管理強化とメディアリテラシー補強により、円滑な活用を目指す。

直面した課題

- ①初めて使う学校で、記事検索やクイズ機能は多くの利用があったが、先生が教科・単元に適した記事をピックアップして、児童・生徒と共有して授業を展開する「授業」の機能はあまり使われていない。
- ②新聞を参考にして文章をコピーしたり、写真やPDFを切り抜き記事と同様に添付するには使いやすいが、文章と写真を組み合わせて加工するためのソフトが搭載されていないため、使いづらい。
- ③セキュリティーについて、契約上、学校・学年までは弊社で管理するシステムだが、児童・生徒の名前は任意記入のため、ペンネームでの投稿、他者を装うなどメディアリテラシー上の問題が発生した。

解決するための改善策

- ①初めて使う学校では、記事検索やクイズ機能については、多くの利用があったが、先生向けマニュアルを実装して、教材を使いながら閲覧できる仕様にする、先生方対象の研修や出前教室などを実施することでフォローアップが必要。
- ②ほかの地方紙のデジタル教材で、新聞編集ソフトを展開している地方紙と連携するか、「ロイロノート」やほかの編集ソフトと組み合わせた使い方をもっと研究し、事例を紹介する。
- ③ID/パスワードのシステムをより強化する。合わせて、情報の真偽を見極める力や情報を表現・発信する際のモラル、ルールなどのメディアリテラシー向上のため、注意書きや新機能での補強を検討したい。

■会社概要

社名	株式会社南日本新聞社
代表	代表取締役社長 木脇良知
設立年月	1882年 2月
本社	〒890-8603 鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目9-33
資本金等	8,380万円
売上高等	85億6321万円(2024年10月~2025年9月期)
従業員数	237人※2025年9月現在
事業内容	<p>・報道・メディア事業 南日本新聞: 鹿児島県全域対象の朝刊発行 デジタルメディア: 南日本新聞デジタル、SNS、LINEなどを活用した情報発信。 フリーペーパー: 「フェリア」などの発行。</p> <p>・広告事業 新聞・ウェブ広告: 紙面・デジタル媒体の広告掲載。 デジタルサイネージ: ディスプレイによる情報発信。</p> <p>・イベント・地域貢献事業 イベント企画・運営: 各種コンクール、セミナー、特産品PRなど。 教育支援: NIE(新聞を教材として活用する教育)推進、ビジネス講座など。 地域共創: ネットワークとノウハウを活用した地域課題解決。</p>

■お問い合わせ窓口

担当: 小川 麻希

電話: 099-813-5061

Mail: m-ogawa@373news.com